

たのもぼくの妻だった。二人で、あの限りなく静謐な絵の数々の前に立ち尽くした至福の瞬間——！』『ベルリンの幼年時代』のいくつかの断章に感じられる美も、まさにこれと同種のものなのだろう。ただ、そこに置かれているのは、絵の具ではなくことばである。ことばが指しているものや感情の美ではない。ことばの響きやその形で

すらない。人はただ、それらのページに置かれたことばそのものの美、ことばの存在自体の美に息を呑み、立ち尽くすほかない。——ぼくにとつて、ペンヤミンの『ベルリンの幼年時代』とは、散文芸術の歴史のなかのひとつの恩寵の瞬間としか言いようがない。

(文筆業)

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』

ロバート・フルガム 著／池央耿 訳 (河出書房新社)

田代 和美

何でもみんなで分け合うこと。

ずるをしないこと。

人をぶたないこと。

使ったものはかならずもとのところに戻すこと。
と。

ちらかしたら自分で後片づけをすること。

人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。
と。

食事の前には手を洗うこと。

トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にい

い。

釣り合いの取れた生活をする——毎日、

少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、

踊り、遊び、そして少し働くこと。

毎日かならず昼寝をすること。

おもてに出るときには車に気をつけ、手をつ
ないで、はなればなれにならないようにするこ
と。

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。

と。発泡スチロールのカップにまいた小さな種
のことを忘れないように。種から芽が出て、根
が伸びて、草花が育つ。どうしてそんなことが
起きるのか、本当のところは誰も知らない。で
も、人間だっておなじだ。

金魚も、ハムスターも、二十日鼠も、発泡ス
チロールのカップにまいた小さな種さえも、い
つかは死ぬ。人間も死から逃れることはできな
い。

ディックとジェーンを主人公にした子供の本
で最初に覚えた言葉を思い出そう。何よりも大
切な意味をもつ言葉。「見てごらん」

*

人間として知っていなくてはならないことは、
すべてのこのなかに何らかの形で触れてある、と
著者は言う。このクレド（信条集）は本全体に
漂っている。

子どもとかかわる人間として、私はいつも「何かをできるようにする」ことだけでなく、「子どもらしさを育てる」ことを大切にしたいと思う。そう思いながらも、大人の都合で子どもを小さな大人に仕立てようとしてしまうことがある。本の中の随所に出てくるフルガムと子どもたちとのやりとりは、子どもの持つ子どもらしさを大切に育てていくためには、大人が子どもらしさを持ち続けて円熟することが、何よりも必要だと私に語りかける。

心の豊かさというのは、どこか子どもらしいとしか言いようのないところがある。

花や虫を見つけて身体全体で喜んだり、地面に寝そべってアリやネコと語らったり、両手でカゴを作って大事そうにそうつと持ってきて「ほーら、お花。はい、ママにプレゼント」と言っている「見えないけどある花」をうれしそうに持ってきてくれたり——こんな子どもらしさを大切に育て

られる人間にとって必要な知恵が、すべてこの本の中にあるように思われる。

(お茶の水女子大学)

